グアテマラでは首都の Zona10 に位置する国立サンカルロス大学薬学部植物園で勤務していました。山形県出身の私は人生初の都会暮らしをグアテマラで経験し、人の多さと発達した交通網に慣れるのに苦労しました。そうしながらも、地方のフィールド調査に同行し、貴重なランなどを採集できたのは幸いでした。カリブ海に面するチョコン・マチャカスの熱帯マングローブ林を横断したり、サカパ県のシェラデラスミーナス（温帯マツ林）でテントを張りながら調査したことを今でも鮮明に覚えています。一方で、植物園内に 8,500 点ほどあった植物標本を整理し、先輩の宮内謙太隊員（自称システムエンジニア）に協力を仰いで、標本のデータベース化を行いました。標本を食べる虫（体長 3mm ほどのタバコシバンムシなど）をシャープペンの先でつぶしたり、PC に向かって一人黙々とデータ入力したりする作業は意欲が湧かない過酷な軽労働でした。協力隊への思いをこちらの HP に掲載しています（https://www.ggsaitama.jp/relay-essay/relay-essayy-araki/）。よろしければご一読ください。

帰国後は博士号（環境学）を取得したり、小学校で非常勤講師をしたり、ポスドクをしたりしながら生き延びました。そして 2011 年から埼玉大学教育学部に奉職しています。現在は、カンボジアやラオスで共同研究をしながら、さいたま市の環境保全や文化財保護を担当する他、生物育成教育の教科内容論に関する研究などに勤しんでいます。

協力隊当時の隊員同士の会話はもっぱら活動の悩み相談になり、最後には必ずといっていいほど「問題の本質は素養がある人材の不足であり、教育を地道に続けなければ抜本的な解決に至らない」という結論で意見が一致しました。どの国も何らかの問題を抱えており、その解決に向けた教育の質の向上は永遠の課題なのかもしれません。この協力隊での経験を胸に刻み、大学教員として教員養成に取り組んでいます。日本の教育現場においてグローバル化に馴化した教員の育成が喫緊の課題になっています。詳しくは栽培学研究室の HP をご覧ください（http://park.saitama-u.ac.jp/~agroecology/）。

末筆ながら、現在グアテマラで勤務されている皆様におかれては、健康と治安に留意され「あせらず、あてにせず、あきらめず」を信条として各々の活動に励んで下さい。グアテマラ・・・辛いこともありましたが、いま思い浮かべるのは同僚や友人、ホームステイ先の家族、JICA スタッフの優しい笑顔と楽しい想い出ばかりです。またいつの日か会いにゆきます。